

令和2年度 下関商業高等学校（定時制） 学校評価書 校長（久保田 力哉）

|  |
|--|
| <p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標・・・①社会人基礎力の育成 ②授業の充実・学習習慣の確立による確かな学力の育成と進路指導の充実 ③部活動、学校行事等の充実 ④保護者・地域との連携と積極的な情報発信 ⑤安心・安全で快適な教育環境の整備</p> <p>めざす学校像・・・①ビジネスの基礎力を充実させ、ビジネスへの理解力と実践力を備えた生徒<br/>②明朗で、人間としての常識とゆたかな人間性及びたくましい体力を備えた生徒<br/>③常に感謝の気持ちを忘れず、他人を思いやり、誠実で謙虚な生徒<br/>④変化の激しい時代に自ら主体的・積極的に対応でき、創造性を備えた生徒<br/>⑤日本の伝統文化を尊重し、グローバルな視野をもった生徒</p> <p>チャレンジ目標・・・①出席率95%以上 ②進路決定率100%・正規雇用就職率100%、3年間は離職しない進路意識の涵養 ③全商検定3級以上全員取得</p> |
|--|

|   |
|---|
| <p>2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）</p> <p>① 素直で落ち着いた態度で学校生活を送っているが、社会的マナー等に関して継続的な指導が必要である。<br/>② 積極的な情報発信による、家庭と連携した進路指導、学習指導、健康指導の充実が求められる。<br/>③ まじめに授業に取り組む学習意欲の高い生徒が多いので、学力を定着させ、社会人基礎力の深化を図ってきたい。<br/>④ キャリア教育の成果により、進路意識は高揚してきた。これからは、進路についての見通しが立っていない生徒への指導・支援が課題である。</p> |
|---|

|   |
|---|
| <p>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>① 卒業までを見通したキャリア教育の推進<br/>② 保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信<br/>③ 社会人基礎力の定着と資格取得の奨励<br/>④ 生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実</p> |
|---|

| 4 自己評価          |                                  |   |  |     | 5 学校関係者評価  |   |    |
|-----------------|----------------------------------|---|--|-----|--|---|----|
| 評価領域            | 重点目標                             | 具体的方策（教育活動）   | 評価基準   | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析  | 学校関係者からの意見・要望等  | 評価 |
| 学習指導            | 自ら学ぶ姿勢とそれを助長する授業の実践を通じた社会人基礎力の養成 | ・それぞれの教科で学習意欲を喚起する授業をつくり工夫するとともに、生徒それぞれに目標を設定させ、それを達成させるために何が必要かを考えさせ、生徒に寄り添い綿密な学習指導を行う。<br>・コミュニケーション能力・自己発信力・読解力を養うために、発問・発表・文章表現・教員との会話等を通じて各教科横断的に日常生活を含めて工夫する。 | 生徒アンケートにおいて、<br>4：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身につくと感じている」と回答する生徒が8割以上である。<br>3：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身につくと感じている」と回答する生徒が6割以上である。<br>2：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身につくと感じている」と回答する生徒が4割以上である。<br>1：「社会人として必要とされる基礎的な学力が身につくと感じている」と回答する生徒が4割未満である。         | 4   | ・コロナ対応のための休業が長い時間続いたため、1年間を通じた学習計画に支障が出るのが懸念されたが、生徒の頑張りや教員の工夫で対処できた。ただ、生徒が考える社会人として必要とされる基礎学力と教員が考える基礎学力には齟齬があるように感じる。<br>・3年生では総合的な学習の時間に、テーマを与え、文意を読み取り、それをまとめ、自分の意見を発信する授業を行うことができた。それが社会人基礎力を身につける一助となればと思う。 | コロナ禍の中、生徒や学校の努力により学習に支障が出なかったことに敬意を表したい。また、総合的な学習等の活用により、自分の意見を整理し発信するという取組は大変に有益である。<br>なお、次年度から生徒に配布されるタブレット端末について、画期的な取組であるので、是非有効活用してもらいたい。 | A  |
| 進路指導            | 確かな職業観・勤労観の育成                    | ・年間に数回実施を予定している進路ガイダンスにおいて、生徒の実態に応じた、生徒一人ひとりが自らの将来像を構築する上でそれに資する内容となるよう、講師との事前打合せを綿密に行う。<br>・各ガイダンス後に感想プリント等で生徒の振り返りを実施することで生徒の自己理解を深めるとともに、十分な生徒理解に基づいた進路指導を推進する。  | 各ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、<br>4：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が8割以上である。<br>3：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が5割以上である。<br>2：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割以上である。<br>1：「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割未満である。   | 4   | ・年間3回、各学期に外部講師を招聘し進路ガイダンスを行った。1学期はハローワーク講演会、2学期は卒業生に聞く会、3学期はマナー講座を実施した。生徒アンケートでは、「勤労や職業に対する見方・考え方が深まった」という問いに対して、「よくあてはまる」14%、「だいたいあてはまる」86%という結果であったことから、一定の成果があったものと思われる。                                      | ・丁寧な進路ガイダンスにより、アルバイト等では分からない勤労や職業についての見方や考え方が深まったというところであり、これからも継続した指導を望むものである。   | A  |
|                 | 進路希望達成率100%                      | ・生徒の適性と希望に応じた、進路に関する情報提供を的確に行う。<br>・就職サポーターとの連携を十分に図りながら、キャリアカウンセリングを行う。  | 4：進路希望達成率100%であった。<br>3：進路希望達成率80%であった。<br>2：進路希望達成率60%であった。<br>1：進路希望達成率60%であった。  | 4   | ・生徒の進路希望調査回答、ハローワーク学卒担当者との情報交換、生徒面談、保護者会を通して得られる担任からの情報等に基づき、生徒の希望する進路決定を試みた。それぞれの希望や状況に応じた見通しのある進路決定となったと思われる。  | ・生徒が希望する進路を選択できるように、大学や専門学校、さらに、ハローワーク等の関係機関との連携を深めてもらいたい。  |    |
| 生徒指導            | 教育相談の充実による学校不適応の未然防止             | 個別面談や「Fit」を活用し、学校不適応の未然防止に努める。  | 生徒アンケートにおいて、<br>4：「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が8割以上である。<br>3：「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が6割以上である。<br>2：「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割以上である。<br>1：「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割未満である。 | 4   | ・全体的には落ち着いたおり、大きな問題はなくなってきた。<br>生徒とのコミュニケーションもとれており、前年度に比べてより細やかな指導ができた。Fitの結果を見ても全体的な雰囲気も良くなってきていることがうかがえる。環境適応、対人適応においても全員が第一象限に収まっており、全体的に落ち着いたことが裏付けられている。   | ・少人数で教育ができる定時制課程の良さを生かして、生徒に寄り添った指導・支援が行われており、これからも継続して行ってほしい。  | A  |
| 保健体育            | 規則正しい生活リズムの確立                    | ホームルーム活動をはじめ、授業や全体指導の場を通じて、生活規律の確立の重要性を理解させるとともに、養護教諭との連携を図り、気になる生徒への健康相談を適宜実施する。   | 生徒アンケートにおいて、<br>4：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が8割以上である。<br>3：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が6割以上である。<br>2：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割以上である。<br>1：「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割未満である。   | 4   | ・屋間にアルバイトや仕事に従事している定時制の生徒にとって、規則正しい生活リズムの確立は、学校生活において重要な課題であるが、「よくあてはまる」と答えた生徒が29%、「だいたいあてはまる」と答えた生徒が71%であり、昨年より向上しており、良好であるといえる。<br>なお、様々な理由から一時的に欠席が続いてしまう生徒の存在もあるため、関係教員と緊密に連携して改善を図った。                       | ・規則正しい生活が、学校生活はもちろん社会に出てからも重要であることはいうまでもない。今後とも引き続き生徒への指導をお願いしたい。   | A  |
| 業務改善            | 学校の組織等                           | ・生徒及び教員定数減にともなう学校行事や校務分掌等の見直しについて検討する。  | 4：十分な取組ができた。<br>3：概ね取組ができた。<br>2：低調な取組であった。<br>1：全く取組ができなかった。  | 3   | ・令和元年度から、校務分掌を4分掌から3分掌に改編して業務を行ってきたが、各分掌とも概ねスムーズに実施できた。今後は新年度に備えて、各分掌における課題を教員間で共通理解し、改善に向けて検討する必要がある。   | ・来年度は定時制課程が閉課程となるので、何かと大変だと思われるので、教職員が力を合わせて業務に取り組んでほしい。  | B  |
|                 | 校内分掌等の見直し                        |   |  |     |  |   |    |
|                 | 日常的な業務                           | ・学校行事等を時間的な余裕をもって早めに企画立案するとともに、実施後の振り返りを行い、より教育効果が上がるよう改善点を見出す。   | 4：すべての行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。<br>3：ほとんどの行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。<br>2：早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた行事はあまりなかった。<br>1：早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた取組はまったくなかった。   | 3   | ・新型コロナウイルス感染症対策のため、臨時休業になるなど、今年度は行事が実施できない状況になったり、方法を見直す必要があった。しかし、その都度、臨機応変に対応することができた。来年度は、全校生徒が2名となるため、学校行事について、内容や実施方法等について検討していくことが課題である。   |   |    |
|                 | 勤務状況                             | ・年休取得の示唆・奨励や定時帰宅を積極的に促し、時間外在校等時間を減らし、「ワーク・ライフ・バランス」の実現をめざす。   | 4：時間外在校等時間の平均が月10時間未満であった。<br>3：時間外在校等時間の平均が月20時間未満であった。<br>2：時間外在校等時間の平均が月30時間未満であった。<br>1：時間外在校等時間の平均が月30時間以上であった。   | 4   | ・時間外在校等時間は、月平均4.3時間であり、長期休業中の時差出勤の取得も積極的に行われており、「ワーク・ライフ・バランス」実現のための職場環境となっている。さらに、年次有給休暇取得を奨励し、セルフケアとして、ストレスチェック制度の活用を促すなど、教職員の健康管理について十分に配慮する。   |   |    |
| 教職員の健康管理への十分な配慮 |                                  |   |  |     |  |   |    |

|   |
|---|
| <p>6 学校評価総括（取組の成果と課題）</p> <p>【学習指導】例年よりも短い授業時間でできる限り学習の質を落とさないように工夫した。<br/>【進路指導】各学期の外部講師招聘によるキャリア教育では進路意識の高揚を図ることができ、事後のアンケート集約等により、生徒理解を深めることができた。<br/>【生徒指導】悩みを持つ生徒に寄り添いながら、ゆったりとした指導ができた。生徒数が減少するが来年度も安定した生徒指導ができればと考える。<br/>【保健体育】生徒の生活リズムの確立については改善してきた。引き続き生徒一人ひとりの状況を丁寧に把握し、きめ細かな指導・支援が求められる。</p> |
|---|

|  |
|--|
| <p>7 次年度への改善策（次年度は、各分掌と学年、さらに、教職員全員がしっかりと連携して滞りなく業務を遂行し、閉課程としたい）</p> <p>【学習指導】次年度は閉課程となるが、在校生2名は知的な好奇心に富んでいるので、学ぶ姿勢を支援してよりよい自己実現を助けていきたい。教員の方が2名ということに甘えて質の下がった授業にならないように気をつけていきたい。<br/>【進路指導】次年度は在校生2名となる。キャリア教育の再構築を図るとともに、年2回（4月・9月）実施の進路希望調査をもとに生徒への情報提供をこまめに行い、これまでと同様、生徒の希望進路の実現に向けたサポートを行いたい。<br/>【生徒指導】次年度は生徒総数が男子2名となる。いわゆる生徒指導上の悩みは多くないと思われるが、彼らの成長を助けるために何をすべきか、いろいろ工夫して臨みたい。<br/>【保健体育】毎年実施される定期健康診断を生かして、治療の勧奨を今後も勧める中で、生徒が生涯にわたり自分自身で健康管理ができる資質や能力を育みたい。</p> |
|--|